

学力調査の内容別・観点別の分析や定期考査の結果も含めた生徒の実態分析

	① 内容別結果の分析	② 観点別結果の分析	③ 内容・観点のクロス分析
国語	<p>全体的には良好である。技能の書く力については、都平均を下回っているが、その他の内容については、1～3ポイント上回っている。また、読み解く力については、取り出す力は9ポイント、読み取る力は4ポイント、解決する力は1.5ポイント都平均を上回っている。</p>	<p>「関心・意欲・態度」「話す・聞く」「読む」「言語・知識・理解」の観点において、都平均を上回り良好であった。「書く力」の向上のためには、様々な言語活動を通じて、自己の考えをまとめたり、発表したりして、経験値を高める必要があると思われる。</p>	<p>「技能」の書く力における課題が見られた。書くことへの苦手意識を払拭するために、まずは自己の言語能力の向上を意識させ、興味関心を高めるような授業改善が課題である。基礎基本を大切にしながら、課題解決を図る手立てを明確に示す必要がある。</p>
社会	<p>地理的分野の日本の地域構成・諸地域と、歴史的分野の近世の日本・近代の日本と世界については目標値を上回り、都平均と比べて、おおむね良好である。 地理的分野の世界と比べた日本の地域的特色と、身近な地域の調査が、目標値を僅かだが下回り、課題が見られる。</p>	<p>「社会的事象への興味・関心・態度」「思考・判断・表現」についてはおおむね良好だが、「資料活用の技能・表現」の力を育成していくことに課題が見られる。</p>	<p>「関心・意欲・態度」については、どの内容でもおおむね良好。 「技能・表現」に課題が見られ、文章や図表などから内容を読み取らせ、情報を取捨選択したり、取り出す力の育成が課題である。</p>
数学	<p>「数と式」や「図形」、「関数」領域の平均正答率が都や全国を上回っている。しかし、「資料の活用」の平均正答率は全国平均に等しいが、都平均を下回っている。また、基本的な知識や技能は比較的身に付いているが、活用する力はどの領域においても低い。</p>	<p>都平均も全国平均も上回っているが、「数学的な見方・考え方」は50%を下回っているため、課題であると言える。</p>	<p>「関数」や「資料の活用」の領域は、平均正答率が低く、課題である。中でも、「数学的な見方・考え方」を評価する応用問題の正答率が低い。従って、理論背景を明確にした上で、知識や技能を身に付けさせる必要がある。</p>
理科	<p>「動物の生活と生物の変遷」と「気象とその変化」については、良好である。 「電流とその変化」については、おおむね良好である。 「化学変化と原子・分子」については、正答率が他の領域に比べると低い。</p>	<p>「自然事象への関心・意欲・態度」、「科学的な思考・表現」、「自然事象についての知識・理解」の3つの観点については、おおむね良好である。「観察・実験の技能」については、正答率の低下が見られる。観察・実験をより重視し、結果から規則性を見いださせる授業をさらに増やすことで改善を図る。</p>	<p>「教科全体」「基礎」「活用」ともおおむね良好である。さらに学力を向上させるため、普段、なかなか授業で取り上げることの少ない発展的な内容の話題を単元の終末に取り上げ、学習したことと日常生活の関わりについて考えさせる。</p>
英語	<p>区の学力調査においては、全ての内容、領域についておおむね良好であったが、「聞くこと」、「読むこと」の領域で、校内正答率が目標値に対し5ポイント未満の項目が2カ所あった。 この項目における問題の内容は、「リスニング(対話文の応答)」と「語形・語法の知識・理解」である。話しの流れを示す語句や不定詞(副詞的用法)の復習を徹底していく必要がある。</p>	<p>全ての観点でおおむね良好である。内容別結果分析と同様、目標値未満の項目2カ所についての主たる観点は、それぞれ「外国語理解の能力」と「言語や文化についての知識・理解」であった。 特に「外国語理解」の面では、リスニングにおける対話文の答えをグラフから読み取り、不規則動詞の過去形や名詞の複数形を交えた文を正しく書く総合的な指導が必要である。</p>	<p>分類(基礎・活用、領域、観点、解答形式)別正答率の比較については、「基礎」は8割を超える正答率であったが、「活用」は6割を超えるにとどまっていた。 さらに、解答形式においては、「選択」が8割を超えていたのに対し「記述」は5割半ばであった。今後は、外国語を使用して文章表現する力の向上と、基礎知識を活用して課題解決する力を育成する必要がある。</p>